

# 対話重ね「個性生かしたい」

仙台六大学野球 東北工大新監督に就任・須藤さん

今冬に仙台六大学野球の東北工大新監督に就任した須藤将仁さん(42)が、春季リーグから指揮を執っている。選手として活躍した工大OBで、目黒裕二前監督(現副部長)からチームを引き継いだ。開幕節(11、12日)の初陣を終え、「感慨深い。チームの雰囲気は良く、選手も頼もしい」と充実感を漂わせる。

青森県弘前市出身。弘前工高から工大に進み、1年春から外野のレギュラーをつかんだ。2002年秋には1年生でベストナインと優秀新人賞に選出され、05年春にもベストナインに輝いた。卒業後は事務職員として工大に就職し、硬式野球部コーチとなった。練習では主に外野守備

や走塁面を教え、試合では三塁コーチを務めるなど、指導経験を積んだ。

指導法は、学生と同じ目線で対話を重ねるスタイルだ。「みんなの個性を生かしたい」と言い、学生主体で話し合わせ、チームづくりの方針を決めるといふ。求めるのは「社会人基礎力」。勝利を追求する前に、あいさつや礼儀の大切さを説く。「野球を通じて社会に出て通用する力を養ってほしい」と願う。

監督デビューとなった開幕節は、東北学院大に2連敗した。1学年上の学院大の星孝典監督とは学生時代に対戦経験があり「不思議な巡り合わせを感じた」。星監督は「大学球界の指導者の

中で同じ若い世代。共に競い合って仙台六大学野球を盛り上げていきたい」と話す。

工大は、リーグ黎明(れいめい)期の1970~73年に、春秋合わせて4度制覇した時代があった。近年は2023年秋の3位以降、Aクラスから遠ざかる。「東北福祉大、仙台大、学院大の3強に割って入りたい」と須藤監督。第2節東北大戦で初勝利を目指す。(山本武志)



学院大―工大 球審に選手交代を告げる工大の須藤監督(左)  
11日、仙台市の東北福祉大球場

## Aクラス入りへ「3強に割って入る」